

キネマ旬報 ベスト・テン作品 / 個人賞

● キネマ旬報

『キネマ旬報』（キネマじゅんぱう）は、キネマ旬報社が発行する映画雑誌である。1919年7月創刊。毎月5日・20日刊行。通称「キネ旬」。

1919年7月に東京高等工業学校（現・東京工業大学）の田中三郎ら学生4人が、アート紙4ページ、毎月1日、11日、21日発行の外国映画専門誌として発刊。1923年9月に発生した関東大震災により社屋が壊滅したが、兵庫県芦屋市や西宮市香櫛園などの阪神間に編集拠点を移して刊行を続けた。このため出版業を通じて阪神間モダニズムの一翼を担うことになる。

1940年12月をもって戦時統制を理由に終刊。加藤幹郎によれば、第二次世界大戦中は誌名を『映画旬報』に変更していた。しかし1946年3月に「再建」し、1950年10月に復刊。以降毎月2回（5日・20日）発行の体裁で現在に至る。

巻末の新作映画紹介は詳細なスタッフ、キャスト表に加え大部分はストーリーの結末まで記されており、刊行期間の長さで相まって巨大なデータベースとなっている。

1990年代にSSコミュニケーションズとNECアベニューの提携で集中電子化が行われ、CD-ROM販売されたこともあるが、現在は一部がGooなどでネットワーク提供されている。

例年2月下旬号（2月5日発売）は、キネマ旬報ベスト・テン発表の特別号となっている。また、同号には前年の映画業界の動向や今後の展望、興行成績の総括も含まれている。2015年からは2月下旬号にキネ旬ベスト・テン、3月下旬号（3月5日発売）に映画業界の総決算の2分冊となった。

2018年3月20日、『キネマ旬報』を発行している、（株）ケージェイは約7億4000万円の負債をかかえ、会社清算を開始した（2018年1月設立の（新）株式会社キネマ旬報社に主力事業を移管。（旧）キネマ旬報社は株式会社ケージェイに商号変更した上で2017年末に解散、2018年3月20日に東京地方裁判所から特別清算開始決定を受けた。2018年3月 - 中央映画貿易が（新）株式会社キネマ旬報社を100%子会社化。）

● キネマ旬報ベスト・テン



キネマ旬報ベスト・テンは世界最古クラスの映画賞で、1924年に外国映画のみを対象として「芸術的に最も優れた映画」「娯楽的に最も優れた映画」の2部門を編集同人の投票により選出したことから始まり、日本映画の水準が高くなったことを理由に1926年から日本映画も対象となった。

毎年、「日本映画ベスト・テン」・「外国映画ベスト・テン」・「文化映画ベスト・テン」が選出されている（1930年度は洋画から「無声映画」と「有声映画」、邦画から「現代映画」と「時代映画」を、1941年度・1942年度は戦争のため邦画のみ選出された）。選出者のベスト・テン（日本映画・外国映画・文化映画）に加え、1972年度からは読者選出ベスト・テン（日本映画・外国映画）も始まった。

キネマ旬報 ベスト・テン作品 / 個人賞

各部門の選出は、映画評論家や新聞記者、映画雑誌編集者などから選抜した120人前後の選考委員によって行われる。各自の選考委員が各部門について自分の基準によって10本の映画を選び、1位は10点、2位は9点……10位は1点と評価を数値化し、その合計によって各部門の順位を決定する。どの選出委員がどの作品に投票したか、またその選考理由については、毎年2月上旬に発売されるキネマ旬報の特別号にて公表される。このような選出方法であるため、合議制によって選出する他の映画賞に比べて透明性が高く、賞の中立性と信頼性を担保している。

一方で、個性的な視点を持っている選考委員のベストテンを集計した賞であるため、興行的な大ヒット作品とは異なる作品が選出される傾向があるとの指摘もある。

毎年を受賞結果はNHKのニュースや読売新聞・朝日新聞・毎日新聞等の全国紙でも報じられる。

出典 [allcinema] [IMDb] [KINENOTE] [映画.com] [goo映画] [YAHOO映画] [Movie Walker] [Filmarks映画]

[映画ナタリー] [Goethe Institute Japan] [Wikipedia] [アカデミー賞記録事典] [キネマ旬報ベスト・テン90回全史] etc.

 DVD/Blu-ray所有映画

第1回 1924年

芸術的に最も優れた映画

	<p>1</p>	<p>A Woman of Paris 巴里の女性 アメリカ Charles Chaplin チャールズ・チャップリン</p>		<p>2</p>	<p>The Miracle Circle 結婚哲学 アメリカ Ernst Lubitsch エルンスト・ルビッチ</p>
	<p>3</p>	<p>Camille 椿姫 アメリカ Ray C. Smallwood レイ・C・スモールウッド</p>	<p>noimage</p>	<p>4</p>	<p>The Call from the Past II Richiamo 過去からの呼声 イタリア Gennaro Righelli ジェンナロ・リゲッリ</p>
	<p>5</p>	<p>The Girl I Loved 我が恋せし乙女 アメリカ Joseph De Grasse ジョーゼフ・デ・グラス</p>		<p>6</p>	<p>The Hunchback of Notre Dame ノートルダムの怪男 アメリカ Wallace Worsley ウォーレス・ウォスリー</p>
	<p>7</p>	<p>Java Head 異郷の露 アメリカ George Melford ジョージ・メルフォード</p>		<p>8</p>	<p>Boomerang Bill 歩み疲れて アメリカ Tom Terris トム・テリス</p>
	<p>9</p>	<p>The Eternal Flame 不滅の情火 (永劫の焰) アメリカ Frank Lloyd フランク・ロイド</p>		<p>10</p>	<p>Trifling Women 心なき女性 アメリカ Rex Ingram レックス・イングラム</p>

キネマ旬報 ベスト・テン作品 / 個人賞

娯楽的に最も優れた映画

	<p>1</p> 	<p>The Covered Wagon 幌馬車 アメリカ James Cruze ジェームズ・クルーズ</p>		<p>2</p> 	<p>Hollywood ハリウッド アメリカ James Cruze ジェームズ・クルーズ</p>
	<p>3</p> 	<p>Safety Last 要心無用 アメリカ Fred Newmeyer フレッド・ニューメイヤー</p>		<p>4</p> 	<p>The Reckless Age 無鉄砲時代 アメリカ Harry Pollard ハリー・ポラード</p>
	<p>5</p> 	<p>Sherlock Holmes シャーロック・ホームズ アメリカ Albert Parker アルバート・パーカー</p>		<p>6</p> 	<p>Broken Chains 男子怒れば アメリカ Allen Holubar アレン・ホルバー</p>
	<p>7</p> 	<p>Thorns and Orange Blossoms 狂恋の唄女 アメリカ Louis Gasnier ルイ・ガスニエ</p>		<p>8</p> 	<p>Trifling Women 心なき女性 アメリカ Rex Ingram レックス・イングラム</p>
	<p>9</p> 	<p>Tess of the Storm Country 嵐の国のテス アメリカ Alfred Santell アルフレッド・サンテル</p>		<p>10</p> 	<p>Rosita ロジタ アメリカ Ernst Lubitsch エルンスト・ルビッチ</p>





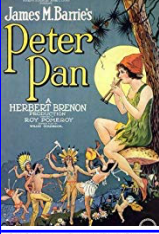



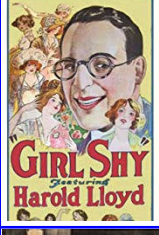





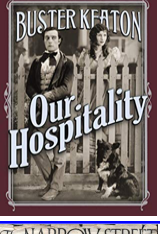

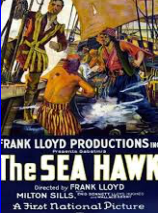



第2回 1925年

芸術的に最も優れた映画

	<p>1</p>	<p>Masks and Monsters La Galerie des Monstres</p> <p>嘆きのピエロ</p> <p>フランス</p> <p>Jaque Catelain</p> <p>ジャック・カトラン</p>		<p>2</p>	<p>Kean, ou Desordre et Genie</p> <p>キーン</p> <p>フランス</p> <p>Alexandre Volkoff</p> <p>アレクサンドル・ヴォルコフ</p>
	<p>3</p>	<p>The Salvation Hunters</p> <p>救いを求める人々</p> <p>アメリカ</p> <p>Josef von Sternberg</p> <p>ジョセフ・フォン・スタンバーグ</p>		<p>4</p>	<p>Die Nibelungen Siegfried</p> <p>ニーベルンゲン ジークフリート</p> <p>ドイツ</p> <p>Fritz Lang</p> <p>フリッツ・ラング</p>
	<p>5</p>	<p>Die Nibelungen Kriemhilds Rache</p> <p>ニーベルンゲン クリームヒルトの復讐</p> <p>ドイツ</p> <p>Fritz Lang</p> <p>フリッツ・ラング</p>		<p>6</p>	<p>Smouldering Fires</p> <p>燃ゆる情炎</p> <p>アメリカ</p> <p>Clarence Brown</p> <p>クラレンス・ブラウン</p>
	<p>7</p>	<p>If Winter Comes</p> <p>冬来りなば</p> <p>アメリカ</p> <p>Harry Millarde</p> <p>ハリー・ミラード</p>		<p>8</p>	<p>Le Chant de L'amour Triomphant</p> <p>恋の凱歌</p> <p>フランス/ソ連</p> <p>Victor Tourjansky</p> <p>ヴィクトル・トゥールジャンスキー</p>
	<p>9</p>	<p>Beau Brummell</p> <p>ポー・ブラムメル</p> <p>アメリカ</p> <p>Harry Beaumont</p> <p>ハリー・ポーモン</p>		<p>10</p>	<p>The White Sister</p> <p>ホワイト・シスター</p> <p>アメリカ</p> <p>Henry King</p> <p>ヘンリー・キング</p>

キネマ旬報 ベスト・テン作品 / 個人賞

娯楽的に最も優れた映画

	<p>1</p> 	<p>The Thief of Bagdad バグダッドの盗賊 アメリカ Raoul Walsh ラウル・ウォルシュ</p>		<p>2</p> 	<p>Don Q, Son of Zorro ドン・Q アメリカ Donald Crisp ドナルド・クリスプ</p>
	<p>3</p> 	<p>Peter Pan ピーターパン アメリカ Herbert Brenon ハーバート・ブレノン</p>		<p>4</p> 	<p>The Humming Bird 蜂雀 アメリカ Sidney Olcott シドニー・オルコット</p>
	<p>5</p> 	<p>Girl Shy 猛進ロイド アメリカ Sam Taylor サム・テイラー</p>		<p>6</p> 	<p>The Phantom of the Opera オペラの怪人 アメリカ Rupert Julian ルパート・ジュリアン</p>
	<p>7</p> 	<p>Strangers of the Night 海賊アップルジャック アメリカ Fred Niblo フレッド・ニブロ</p>		<p>8</p> 	<p>Our Hospitality 荒武者キートン アメリカ Buster Keaton バスター・キートン</p>
	<p>9</p> 	<p>The Sea Hawk シー・ホーク アメリカ Frank Lloyd フランク・ロイド</p>		<p>10</p> 	<p>The Narrow Street 美人食客 アメリカ William Beaudine ウィリアム・ボーディン</p>

第3回 1926年







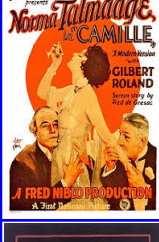

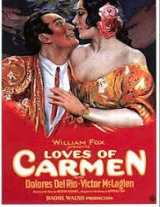

日本映画					
	1	足にさはった女		阿部ジャック	
	2	日輪		衣笠貞之助	
	3	陸の人魚		阿部ジャック	
	4	狂った一頁		衣笠貞之助	
	5	カラボタン		野村 芳亭	
	6	受難華		牛原 虚彦	
	7	紙人形の春の囁き		溝口 健二	
	8	転落		井上金太郎	
	9	水戸黄門		池田 富保	
	10	蜘蛛		悪 麗之助	

第4回 1927年

日本映画								
	1	忠次旅日記 第二部 信州血笑篇		伊藤 大輔		2	彼を繞る五人の女	阿部 豊
	3	尊王攘夷		池田 富保		4	忠次旅日記 第三部 御用篇	伊藤 大輔
	5	海の勇者		島津保次郎		6	からくり娘	五所平之助
	7	慈悲心鳥		溝口 健二		8	悪魔の星の下に	二川文太郎
	9	下郎		伊藤 大輔		10	道中悲記	井上金太郎

キネマ旬報 ベスト・テン作品 / 個人賞

外国映画

	<p>1</p> 	<p>7th Heaven 第七天国 アメリカ Frank Borzage フランク・ボーゼージ</p>		<p>2</p> 	<p>Variety Variete ヴァリエテ ドイツ Ewald Andre Dupont E・A・デュボン</p>
	<p>3</p> 	<p>The Big Parade 大進軍 アメリカ King Vidor キング・ヴィダー</p>		<p>4</p> 	<p>Beau Geste ボー・ジェスト アメリカ Herbert Brenon ハーバート・ブレノン</p>
	<p>5</p> 	<p>The Way of All Fresh 肉体の道 アメリカ Victor Fleming ヴィクター・フレミング</p>		<p>6</p> 	<p>Hotel Imperial 帝国ホテル アメリカ Mauritz Stiller モーリッツ・スティルレル</p>
	<p>7</p> 	<p>Chang チャング アメリカ Ernest B. Schoedsack アーネスト・B・シューザック</p>		<p>8</p> 	<p>Camille 椿姫 アメリカ Fred Niblo フレッド・ニプロ</p>
	<p>9</p> 	<p>Loves of Carmen カルメン アメリカ Raoul Walsh ラウール・ウォルシュ</p>		<p>10</p> 	<p>Don Juan ドン・ファン アメリカ Alan Crosland アラン・クロスランド</p>